



# 原発に頼らない社会を！「木質バイオマス」の効用

私たち民進党は、基本政策の柱として「2030年代までに原発ゼロ」を掲げております。それでは何をもって、原発に代わり得るような電源を見つけるのか、それも地球温暖化にマッタをかけつつも、です。

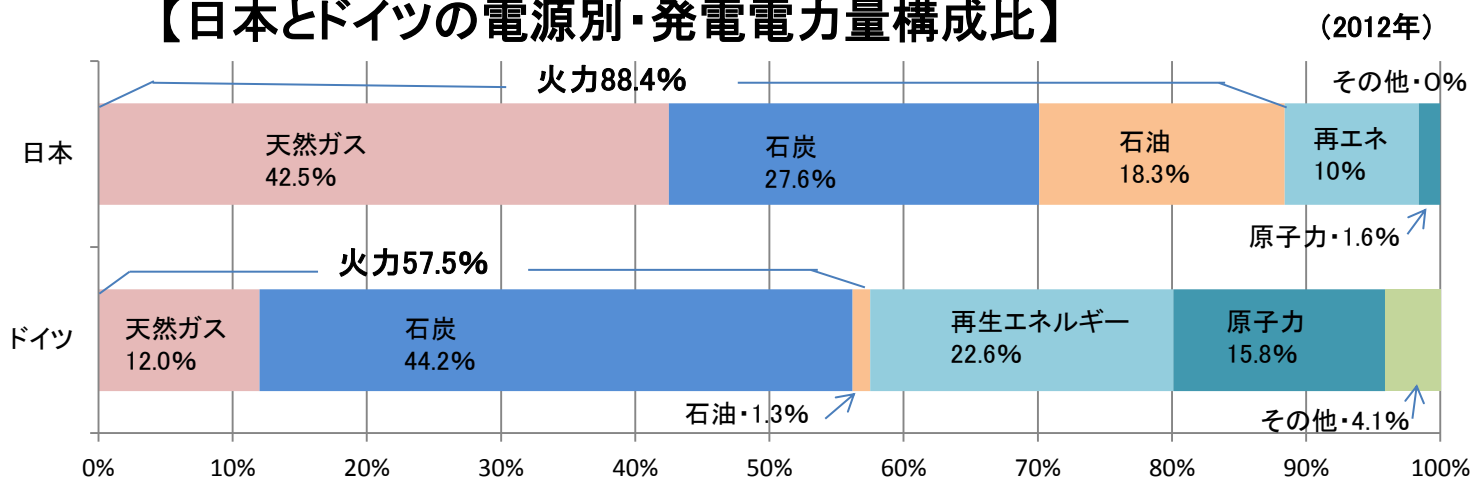
日本は、世界でも有数の森林資源を有している国。化石燃料を木質バイオマスに代替することにより、地域に資金と雇用が生まれ、農山村に新たな富をもたらし、それが地域の再生にもつながっていきます。

その具体的な成功事例はドイツ。下グラフのドイツにおける総電力量のうち、7%はバイオマス発電です。出力2千キロワット程度の設備を各方面に設置すること、そして何より発生する熱を活用すること、すなわちコージェネレーション（熱電併給）が不可欠となります。

## 【日本とドイツの比較～日本は森林面積が広～い】

国		日本	ドイツ
陸地面積	(1,000ha)	36,450	34,877
森林面積 (2010)	総面積 (1,000ha)	29,479	11,076
	人工林 (1,000ha)	10,326	5,283
人口(2012)	(100万人)	128	82
国内総生産(2011)		470,623	2,593
		(10億円)	(10億ユーロ)

## 【日本とドイツの電源別・発電電力量構成比】



「日本漂流」

世界が、日本が驚いた。選挙戦で「米国の国益最優先」「既存政治批判」そして過激な発言が目立っていたトランプ氏が米国の次期大統領に決まった。

米国の現状に不満を抱き疎外されていた人達から熱狂的な支持を集めたという。

隣国の韓国では「パク大統領退陣運動」が嵐のごとく激しく吹いている。一連の疑惑事件を発端に退陣を迫る大規模抗議集会など世論の激しい反応は社会の不満が噴出したものだと言う。

ひるがえって、日本では「アベノミクスが失速」した。

先ずは経済を成長させ大企業が豊かになれば中小企業や中・低所得層まで広く恩恵が分配されるはずであった。

しかし、企業の株主への利益還元や内部留保に回され、従業員の所得アップは後回しにされているという。また、年金も引き下げられるという。

その結果、将来不安はいまだに払拭されていない。

二〇一七年の日本はどこへ向かうのだろうか。

「我、事において後悔せず」(宮本武蔵)の言葉を水戸議員に贈りたい。益々の活躍を期待し応援していきたい。

今月の  
水戸まさし応援団

水戸応援団  
Mチーム 益田正廣

- ◆HP 「水戸将史」で検索
- ◆メール kickoff310@yahoo.co.jp
- ◆Face book 「水戸将史」で検索
- ◆Twitter @mito\_kickoff
- ◆メルマガ 登録はHPから

- ◆国会事務所  
〒100-8982  
東京都千代田区永田町2-1-2  
衆議院第二議員会館601号室  
TEL:03-3508-7027 FAX:03-3508-3827

- ◆地元事務所  
〒245-0008  
横浜市泉区弥生台26-6  
TEL:045-814-3001  
FAX:045-814-3007